

広島県立広島中学校

入試科目	適性検査 1	適性検査 2
試験時間	50分	45分
配点	110点	100点

◎適性検査 1…文章・資料をもとに、課題を発見し解決する過程を多様な方法で表現する。

◎適性検査 2…テーマ等に基づき、思ったことや考えたこと等を文章で表現する

◎合格者は適性検査、志望理由書及び調査書を総合的に判断して決定。

適性検査 1

- 1 サッカーのAチームとEチームの勝ち点が1番と2番になるよう対戦表を完成させる問題
- 2 カイロの発熱に酸素が使われたのかどうかを確かめる問題
- 3 3つのグループが複数の清掃場所をまわり制限時間以内に戻ってこられるよう経路を決める問題
- 4 電磁石を強くする方法をくぎの直径と導線をまく幅を変えた場合の実験結果より見つける問題
- 5 条件に合うよう花だんに苗を植えたときの間かくと必要な苗の本数を求める問題

2014年以降出題スタイルが確立され、大問6問の出題でしたが、今年度は大問5問の出題となりました。問題の難易度は例年通りであったため、全体的に易化したといえるでしょう。

適性検査の出題は資料等をもとに、課題を発見し解決する過程を多様な方法で表現させるので、基本的に解答は記述式になります。適性検査1では算数や理科的な要素が色濃く、基礎学力を鍛えておくことは必須です。

2020年度の適性検査1は、次のような出題内容となっています。

1 条件に合うよう対戦表を完成させる問題です。既にわかっている結果からAチームとEチームがなるべく勝つように結果を決めて

ていけば解きやすく、正答となる解答パターンも複数考えられる問題でした。

2 課題解決のために行う理科実験について、方法や結果を説明する問題です。具体的には酸素がカイロの発熱に使われたのかどうか確かめるため、必要な実験道具を選び実験方法と結果を説明する問題でした。酸素が使われたことを確かめるので、カイロのある・ないで酸素濃度が変わることや、カイロの発熱の過程で酸素濃度が変わることを確かめる必要がありました。どんな方法で実験するのか迷ってしまうと時間がかかってしまう問題です。

③ 経路選択の問題です。複数の道順が選べ、清掃人数によって掃除が終わるまでの時間が変わることから条件に合うような組み合わせは見つけづらく、試行錯誤する必要がありました。受検生によって差が出やすく、解いてみて時間がかかりそうと感じたのであれば潔く後回しにした方がよかった問題です。

④ 実験結果から電磁石を強くする方法を説明する問題です。6パターンしかありませんから、自分が説明しやすいものを選び何の関係に注目したのか、結果がどうなったのかまとめられれば比較的解きやすい問題でした。

⑤ 条件整理と簡単な計算の解きやすい問題です。間の数から植える苗の本数を求めます。この問題は複数回答がありませんでした。間の数を苗の本数にしてしまわないよう気をつける必要がありました。ミスなく仕上げたい問題です。

県立広島中学校の適性検査問題では比較、分類、関連づけ、資料や条件の読み取り等を適切に行う力、分析力・思考力・表現力が求められ、素早く答案を作り上げなければなりません。もちろん、誤字脱字は減点されます。

今年も昨年と同様に簡単な設問でも解答が複数考えられる問題が多く見られました。自身の判断が求められる問題でも慌てず自分の考えに自信を持って、与えられた条件をもれなく読み取り、自分で答えを決め、なぜそう考えたのか、その答えまでどのように考えたのか書き出す力が求められました。

比較的書きやすい問題が多かったため、一つ一つに時間をかけすぎず、全ての問題に対して解答が書けていることや、ミスなく記述できていたかどうか也很重要です。

課題解決の問題として理科の実験記述問題が昨年に続き今年も2題出題されましたが教科書レベルの出題です。なぜその実験を行うのか、結果から何が考えられるのか、目的を意識しながら学んでおく必要があります。

普段から読み書きや計算の能力を高め、技能を磨き、素早く判断し、要点を押さえ、短く、順序よく表現する能力を鍛えておくことが重要です。また、知識問題にかたよらない適性検査の特質上、当日の出来が大きく合否を左右しますから、模試などを積極的に利用して時間配分に慣れるとともに、集中力を養っておくことが必要でしょう。

適性検査 2

- 1 学級委員会による、元パラ選手との交流会を振り返り、6年生全体で行う取組を提案する問題
- 2 土地（埋め立て）利用の沿革についてまとめる問題
- 3 1. 「みんなの夢まもるため」について書かれた文章を用いた国語的記述問題
2. 筆者が伝えようとしていることをまとめ、その考えについて自分の考えをまとめる作文問題

2013年（平成25年）以降、出題構成が落ち着いてきている県立広島中の適性検査2です。基本構成は以下のようになっています。

- 1 資料データを用いた発表原稿を作る（200字以内）
- 2 社会科資料をもとにテーマを説明する（9行程度）
- 3 1. 四科型国語の記述問題に答える（2行程度）
2. テーマに関する筆者の考えをまとめ、自分の考えを述べる（条件…2段落で180字～200字以内）

基本方針の大きな変更がない限り、今後もこのスタイルを踏襲するものと予想されます。

2020年度の適性検査2は、次のような出題内容となっています。

1 6年生に対して行った夢や希望に関するアンケート資料と交流会で学んだことをもとに、学級委員代表である和子さんが6年生全体で行う取組みについて提案する原稿を作成する問題です。資料データから、特徴的な傾向やどのデータを組み合わせると書きやすいかを見いだす目を養っておきましょう。

一昨年までは、目標やその理由が問われていましたが、今年度も昨年度同様に原稿のみ（200字以内、以前は150字以内）が問われています。

2 今年度は5年ぶりに地理分野（プラス歴史）から出題されました。例年に比べ、取り組みやすい問題でした。内容は、海を埋め立て陸地にされたA町の土地が、どのようにして現在のような土地利

用になったのかについてまとめる問題です。A町の地図とA町の歴史という2つの資料から、A町の土地利用の沿革をまとめる問題です。米を生産する目的で埋め立てられた土地で、現在は野菜の生産もされている理由を「歴史の大きな流れと関連づけて」書く必要があります。なお、どの分野から出題されるかは、年度により異なります。2013年からの出題は、歴史→地理→地理→歴史→歴史→歴史→公民→歴史→地理（プラス歴史）となっています。来年度も歴史を中心とした対策が必要となるでしょう。

3 与えられた1000字程度の文章を読んで答える問題です。2020年度は、アニメ「アンパンマン」の作者として知られる漫画家やなせたかしさんのエッセイ「みんなの夢まもるため」の一部が出題されました。いわゆる四科型国語の記述問題を2行で書ききった上で、与えられたテーマと4つの条件にあった作文が求められます。比較的書きやすいテーマが多いですが、4つの条件すべてを満たすことができるよう練習を積み重ねておきましょう。

近年、出題の基本スタイルが確立し、以前と比べれば対策も立てやすくなっています。合格水準の突破には、【データを読み取ること／自分の考えをまとめること／文章の組み立てを考えること】、の3点を大切に、書き慣れる対策が不可欠です。さらに、時間内に仕上げるができるよう、ペース配分の練習も重ねておきましょう。